

変えられる運、 変えられない運

成田悠輔

(経済学者)

人生がうまくいっている人と、そうでもない人の差は何か。

そこには「能力やスキルの差」と同じかそれ以上に、「運」としかいいようのないランダムな要素が大きく影響している。
データを用いて、「運」を経済学的・統計学的に論じる。

ています。

親の持つ経済資本や文化資本、社会資本がそのまま子どもの将来に大きな影響を与えるのは、世界中の国々に共通した特徴です。ただ、その度合いは国によって違う。アフリカやアジアや中南米の一部には、政府が腐敗し市場も機能不全、さらに教育制度も機能しておらず、「生まれによる運」が悪いと成功するチャンスが皆無という国すらあります。だから、日本やアメリカに生まれただけで、誰もが「人生の当たりくじ」を引いたといえるかもしれません。

もう一つの運は、生まれや努力など目に見えるものは説明できない「乱数的な運」です。いわば「勝ちグセ」や「出会い」とも呼ぶべきもので、人生の中で起こるさまざまなイベントで「なぜだかわからないが成功・失敗してしまった」という偶発性です。

人生がうまくいっている人とそうでもない人のあいだには、能力やスキルの差と同じかそれ以上に「運」としかいよいよのない要素が大きく影響しているように感じます。著名な政治家や経営者、あるいは知人の研究者や起業家たちを見ても、能力が高く必死に努力している人が鳴かず飛ばずといったことが少なくありません。むしろ、際立つ能力もなく、人並み外れた努力もしていない人たちが、たまたま手にした成功の上に成功を積み重ねて重要なポジションについていることが多い。

そんな「勝ちグセ」の正体が何なのか、どんなメカニズムで動いているのかを、人類はまだ解説できていません。人生は「運」によって大きく左右されるのは間違いないですが、私たちがひとくくりに「運」と表現しているものはいくつかの異なる側面に切り分けて考える必要があります。

さらに付け加えると、「親ガチャ」と「勝ちグセ」のあいだには、相関関係があります。「親ガチャ」に恵まれた人は、お金や人脈や信用を使ってライフィベントのくじ引きを何度も引き直せることが多い。くじ引きのチャンスが多くれば「ハイリスク・ハイリターン」の選択もしやすくなります。結果として、親ガチャに恵まれた人ほど、人生で成功する確率が上がつくるわけです。

「親ガチャ」からの解放

「親ガチャが子どもの人生を決定づける度合い」については、たとえば「世界の経済学界のマイケル・ジョーダン的存在」であるラジ・チ

エティたちの研究があります。彼らはアメリカの確定申告の納税データから、「親の経済状況により、その子どもが大人になったときの年収がどれくらい予測できてしまうか」を調査しました。さらにそうした親子間の収入の相関を国際比較した研究もあり、これらの調査からは二つの大きな発見がありました。

発見の一つは、アメリカ国内でも「場所によつて、親ガチャ度合いが大きく異なる」という点です。たとえばシアトルやサンフランシスコのように栄えている大都市と、デトロイトなどラストベルト（ミシガン州やオハイオ州、ペンシルベニア州など、鉄鋼や石炭といった時代遅れの産業に依存した「錆びついた工業地帯」と呼ばれる都市とでは、後者のほうが親ガチャ度合いは高くなる、つまり「親の経済格差が、子

の経済格差を固定する傾向が強い」ことがわかりました。

もう一つの発見は、「親ガチャの影響力は、国によって大きく異なる」ということです。どのような家庭環境であってもチャンスが与えられることを「アメリカン・ドリーム」といっていれば、アメリカはもはやアメリカン・ドリームの国とはいえないこともわかつてきました。イギリスやフランスといった歴史の古いヨーロッパの国たちは人生の地位を向上させるチャンスが多くらいで、もはやアメリカは「親ガチャ度合いに強く縛られる国」になってしまったという見方もできるくらいです。

こうした「親ガチャの影響力は、住む『場所』や『国』によつて大きく異なる」という二つの発見からいえるのは、「生まれにより決まってしまう親ガチャ的運は、場所や環境を移すことで変えられる」ということです。

では、どのような都市の属性が、親ガチャを強化する傾向にあるというのでしょうか。たとえば「離婚率やシングルマザー率が高い」「高校中退率が高い」「〇代から働く人が多い」といった属性のある都市では、親ガチャでの格差が固定されてしまう傾向が強いことがわかりました。言い換えれば、「家族関係や教育環境の改善

午後5時を知らせるチャイムが鳴り、家路を急ぐ子どもたちを横目に、公園のシーソーに乗る成田悠輔氏。

